



国道357号

東京湾岸道路



国土交通省関東地方整備局
横浜国道事務所

東京湾岸道路



東京湾岸道路は、東京湾周辺の横須賀、横浜、川崎、東京、千葉、木更津及び富津等の諸都市を連絡する延長約160kmの幹線道路であり、内陸部の交通混雑の緩和を図るとともに、湾岸に立地する諸都市、諸施設の機能の効率化に資することを目的とした道路です。また、わが国の国際競争力強化のため、国際コンテナ戦略港湾や国際空港を支えるネットワークを構築し、物流の効率化にも貢献します。自動車専用道路と一般道路(国道357号、14号、16号)で構成されており、このうち国道357号は、千葉県千葉市から神奈川県横須賀市までの延長約80km(神奈川県区間は延長約35.1km)です。



国道357号 神奈川県区間

神奈川県内の国道357号は、昭和52年、昭和63年に川崎市浮島から横須賀市夏島町間が都市計画決定されました。昭和52年から事業に着手し、平成27年度までに、川崎市川崎区東扇島の延長約3.0km、横浜市区間では、鶴見区大黒ふ頭から金沢区八景島間の延長約20.0km、合計約23.0 kmを順次暫定供用しています。

さまざまな効果をもたらす東京湾岸道路神奈川県区間 ～都市の夢を結ぶ国際港都・横浜の新しい活力～

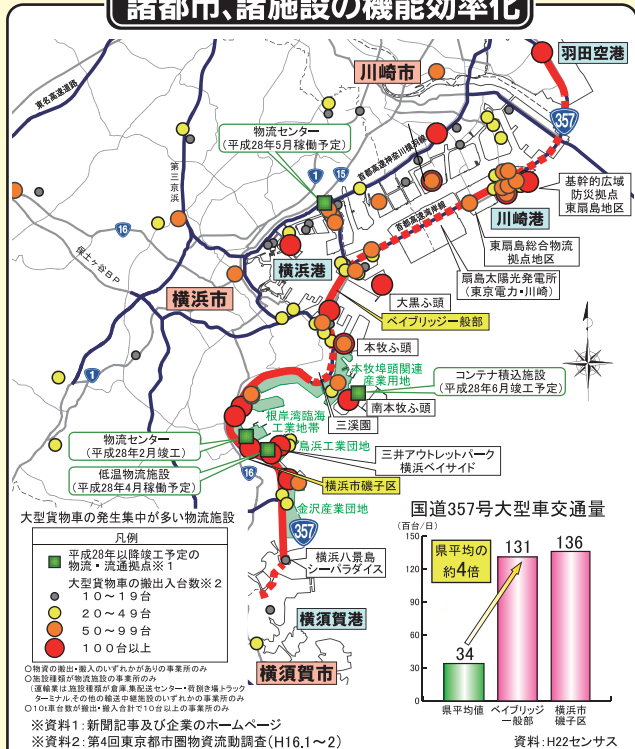
内陸部の渋滞緩和・諸都市、諸施設の機能効率化

国道357号に並行する内陸部主要路線の交通混雑緩和と湾岸地域に立地する諸都市、諸施設の機能の効率化に寄与します。

内陸部の渋滞緩和



諸都市、諸施設の機能効率化



国際コンテナ戦略港湾である京浜港の物流を支援

京浜港は令和12年に約1250~1470万TEUの貨物量を目標としています。(平成30年現在約830万TEU)一般国道357号東京湾岸道路(神奈川県区間)は国際コンテナ貨物の増加に向け、物流の円滑化に寄与します。

※TEUとは
20フィートコンテナ換算のコンテナ取扱個数の単位



臨港道路を通行するコンテナ車両

南本牧ふ頭(大水深・高規格コンテナターミナル)

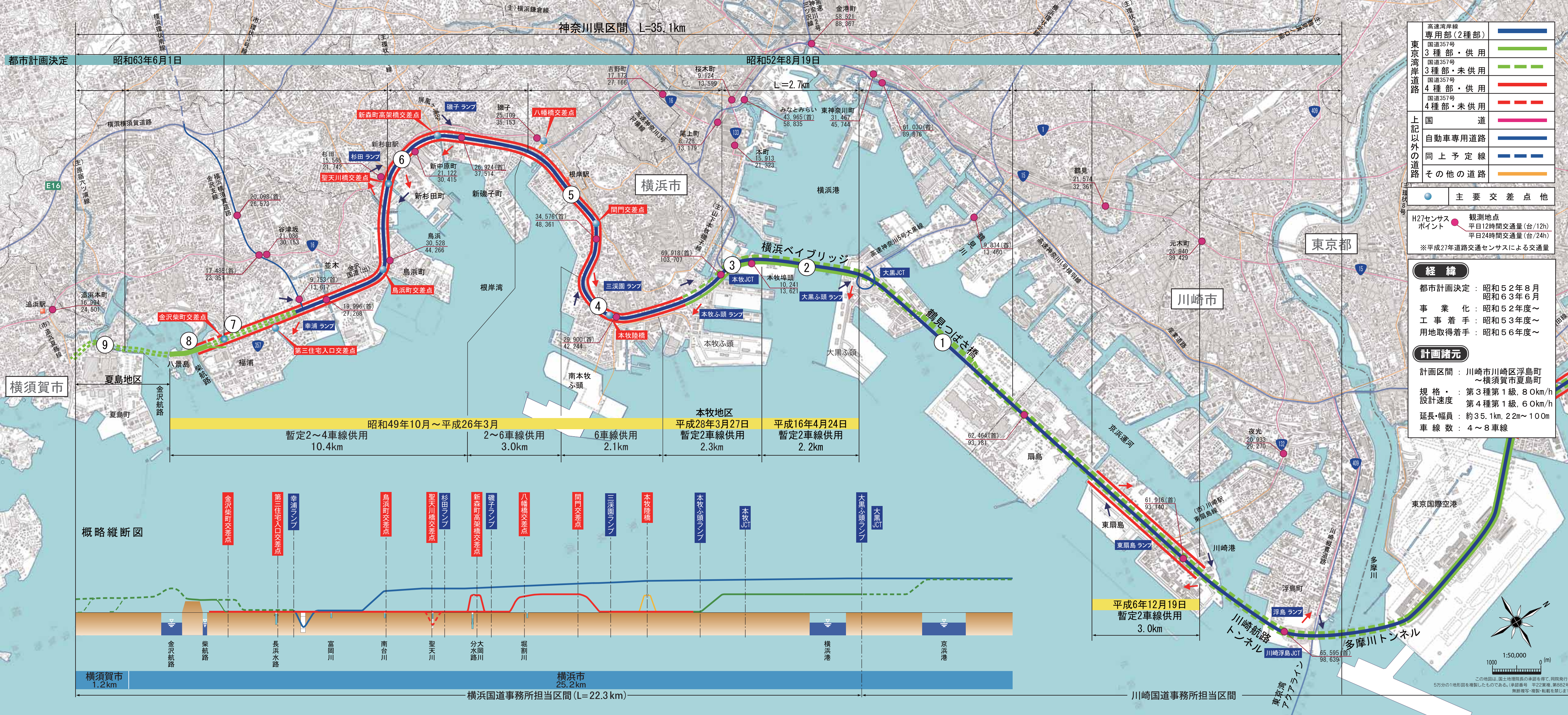
南本牧ふ頭位置図



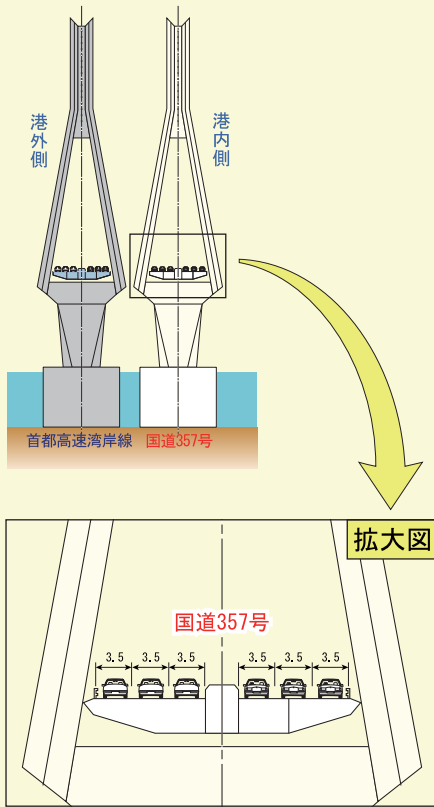
供用時期	MC-1・2地区	平成13年4月	供用開始
	MC-3地区	平成27年4月	供用開始
	MC-4地区	整備中	



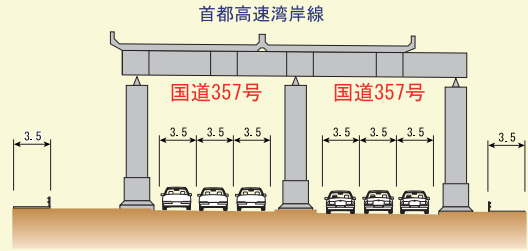
写真提供：横浜市港湾局



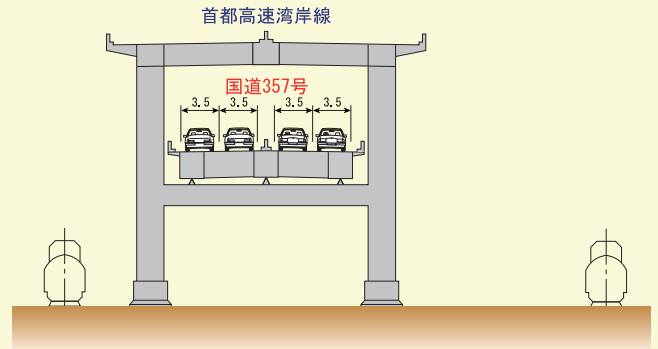
① 鶴見つばさ橋



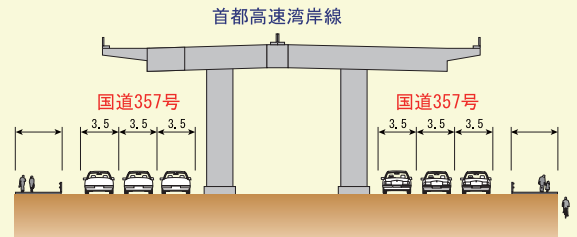
④ 三溪園付近



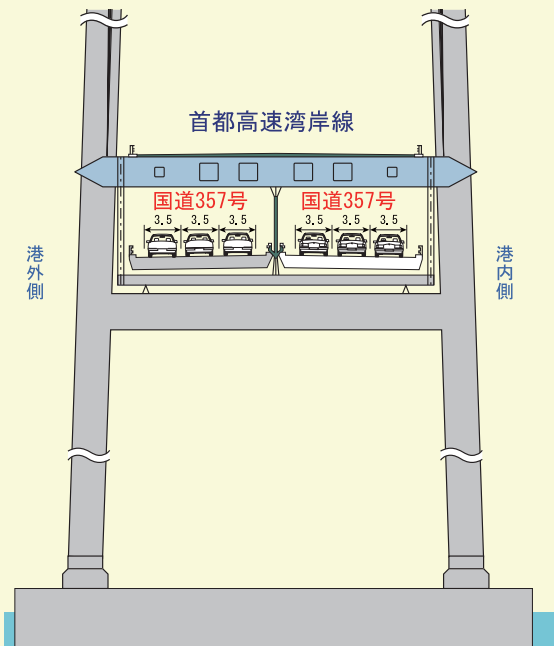
⑤ 根岸駅付近



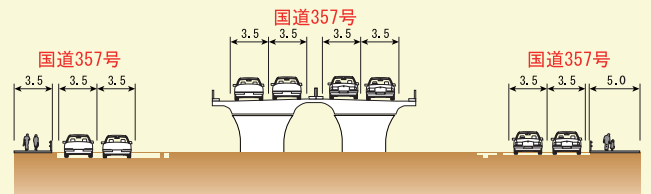
⑥ 新杉田駅付近



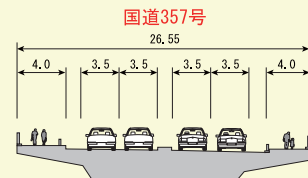
② 横浜ベイブリッジ一般部



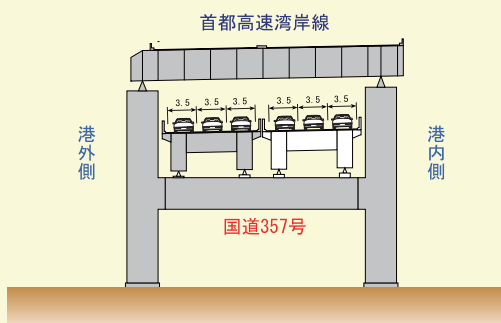
⑦ 福浦付近



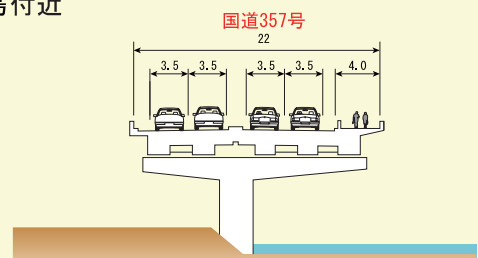
⑧ 柴航路橋



③ 本牧ふ頭付近



⑨ 夏島付近





国土交通省関東地方整備局 横浜国道事務所

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町13-2
調査課 TEL. 045-316-3537
<http://www.ktr.mlit.go.jp/yokohama/index.htm>